

2017年4月5日

縦走行タイプ製品取出口ロボット

「CT」シリーズを発売

● ユーシン精機 ●

プラスチック射出成形品取出口ロボット専門メーカーの(株)ユーシン精機(社長/小谷眞由美、本社/京都市、資本金/19億8,566万円)はこのほど、最新の最適設計を用いた縦走行タイプ製品取出口ロボット「CT」シリーズ 6機種を開発、4月5日から発売を開始する。

今回の「CT」シリーズは、対象成形機型締力 80~130tf(トン)に対応の「CT-100」、同 100~220tf 対応の「CT-150」、同 180~300tf 対応の「CT-250」の 3機種に加え、低全高タイプの「CT2」シリーズもラインナップすることで、お客様の様々な要望に応える。

新商品の特長

従来の取出口ロボットとは違い成形機の可動側に成形品を開放する構造を採用することで、成形工場の生産性アップに貢献する。

1. スペース効率

従来までの横走行タイプ製品取出口ロボットに比べ縦走行タイプ製品取出口ロボットは、成形機と成形機の間隔を狭くすることが可能なため工場フロアを最大限活用することが可能。

2. 省エネ

ユーシン精機が推し進めている「最適設計」によるモータの小型化、「ECO吸着」の標準化などにより、電気・エア消費量を抑えた省エネルギーを実現。

3. 制振

「最適設計」や「CFRPの採用」による振動減衰性能の向上に加え、「制振制御」を採用することで大幅な整定時間の短縮を実現し、より緻密な安定した高速取出しでお客様の生産効率アップに貢献。

価格は本体定価（消費税別）で、「CT-100S」が 390 万円、低全高タイプの「CT2-100S」が 430 万円。販売目標は、年間約 100 台を見込んでいる。

(問合せ先)

広報担当：事業推進企画室 江副

TEL：075-925-0400

本社：京都市南区久世殿城町 555 番地

【補足】

※「最適設計」

ロボットの機構やその動きを考慮して CAE（コンピュータ支援技術）により理論的な最適形状を求める手法。

※「整定時間」

振動が基準値内に収まるまでの時間